

鳥取県立公文書館報

第33号
(令和5年度)

鳥取県立公文書館

目 次

公文書館の概要

1 設置の目的	1
2 機能	1
3 組織	1
4 令和5年度予算	1
5 令和5年度事業計画	2
〔 公 文 書 担 当 〕	2
(1) 引継ぎ	
(2) 整理・保存	
(3) 利用提供	
(4) 普及事業	
(5) その他	
〔 市 町 村 協 働 担 当 〕	3
(1) 県市町村歴史公文書等保存活用共同会議	
〔 県 史 活 用 担 当 〕	3
(1) ふるさと教育・人材育成支援事業	
(2) 県民の豊かな学びを支える県史活用推進事業	
(3) 新たな地域を拓く歴史情報収集・発信事業	
(4) 鳥取の特色ある歴史文化の調査研究事業	
(5) 事業検討会議の開催	

令和4年度事業概要

〔 公 文 書 担 当 〕	
1 特定歴史公文書等の引継ぎ等の状況	4
(1) 鳥取県公文書等の管理に関する条例第2条第4項ア及びイに該当するもの	
(2) マイクロフィルムにより複製、保存しているもの	
(3) 刊行物等の行政資料	
(4) 寄贈資料（鳥取県公文書等の管理に関する条例第2条第4号ウに該当するもの等）	
2 整理・保存の状況	5
(1) 簿冊（公文書綴）等紙資料の修復	
(2) 写真資料等の修復及び電子化	
(3) 複製本の作成	
(4) 簿冊の電子化	
3 利用の状況	6
(1) 鳥取県公文書等の管理に関する条例第13条に基づく利用請求の状況	
(2) 行政資料等の利用状況	
(3) 一般の方の来館利用状況	
(4) 県職員の利用状況	
(5) インターネットによる公文書館ウェブサイトの閲覧状況	

4 展示の状況	7
(1) 常設展	
(2) 企画展	
5 県市町村が連携・協力した歴史公文書等の保存活用の推進	7
(1) 県市町村歴史公文書等保存活用共同会議	
(2) 企画展（再掲）	
(3) 公文書館と図書館、博物館との連携	
(4) 歴史公文書等の保存活用に係る市町村との連携事業	
6 普及・啓発	8
(1) 令和4年度鳥取県新規採用職員基礎研修	
(2) 倉吉博物館講座	
(3) 日野町古文書に親しむ会	
(4) 鳥取市社会教育事業団『郷土シリーズ（41）』編集委員委嘱	
(5) 県外からの依頼により講師を派遣	
(6) 鳥取県立公文書館報第32号の発行	

〔 県 史 活 用 担 当 〕

1 ふるさと教育・人材育成支援事業	9
(1) 新鳥取県史を活用した学習教材開発事業	
(2) 高校生のための古文書ワークショップ	
(3) 市町村事業の支援・協力	
2 県民の豊かな学びを支える県史活用推進事業	10
(1) 新鳥取県史を学ぶ講座	
(2) 鳥取県史ブックレットの刊行	
(3) 占領期の鳥取を学ぶ会の開催	
3 新たな地域を拓く歴史情報収集・発信事業	11
(1) 鳥取県に関する重要な歴史資料の調査収集	
(2) 新鳥取県史収集資料の整理と公開	
4 鳥取の特色ある歴史文化の調査研究事業	11
(1) 鳥取県災害アーカイブズ事業	
(2) 「鳥取県の昭和の記憶」収集事業	
(3) 弥生時代青銅器の調査研究	
5 事業検討会議の開催	13

公文書館の概要

1 設置の目的

公文書館は、歴史資料として重要な県等の公文書、その他の記録などを保存し、県民の利用に供するとともに、調査研究を行うため設置し、県、市町村及び県民等が相互に連携し、協力して行う歴史資料として重要な史料の保存及び利用に関する中心的役割を果たすものとする。

2 機能

(1) 公文書の引継ぎ、整理及び保存並びに一般利用

鳥取県公文書等の管理に関する条例に基づき、歴史公文書等のうち、特定歴史公文書等として引き継いだものを整理・保存するとともに、一般利用に供する。

(2) 行政資料などの配架

行政資料・統計資料を自由に閲覧できるよう閲覧室に配架する。

(3) 情報の提供

県の施策その他県政に係る歴史的事実に関する調査研究を行い、その成果を企画展などを通じて情報提供する。

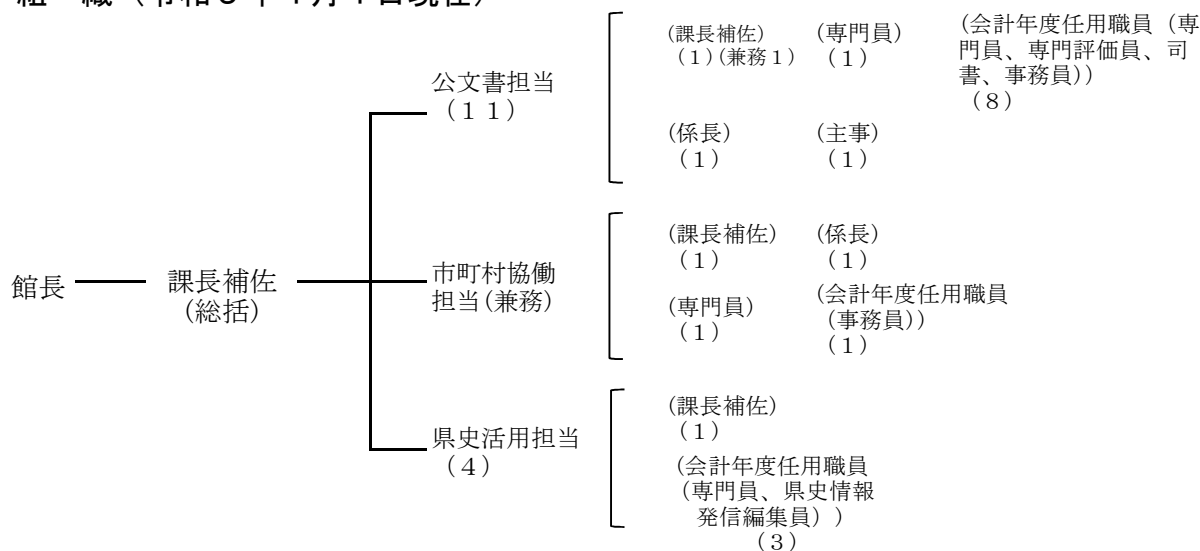
(4) 市町村・県民等との連携・協力

市町村・県民等の保有する歴史資料として重要な資料の保存・利用に関する専門的な情報の提供、技術的な助言等を行う。

(5) 県史編さん情報の活用推進

新鳥取県史編さん事業の成果や収集した資料の公開や活用を推進するとともに、ブックレットの刊行、講演会の開催等の普及事業を実施する。

3 組織（令和5年4月1日現在）



4 令和5年度予算

(単位：千円)

事業名	当初予算額
公文書館管理運営費	8,680
公文書収集・保存・活用事業	1,968
公文書館センター機能強化・充実事業	1,687
ふるさと鳥取歴史情報活用推進事業	8,579
合計	20,914

5 令和5年度事業計画

〔公文書担当〕

(1) 引継ぎ

- ア 実施機関が作成した歴史公文書等について、保存年限満了後速やかに当館へ引き継ぐ。
- イ 引き継がれた簿冊について、早期に利用制限情報に関する審査や公文書管理条例制定前引継文書の再評価を行う。
- ウ 所蔵簿冊の点検を行い簿冊目録の整備を図る。
- エ 書庫の狭あい化に備えて、当面の書庫管理の適正化を図る。

(2) 整理・保存

- ア 公文書綴り(簿冊)等紙資料の修復
劣化・破損の著しい簿冊や寄贈を受けた貴重資料を、専門事業者に委託して脱酸、裏打ち、漉き嵌め(リーフキャスト)等で修復する。軽易な修復は職員が行う。
- イ 写真、映画フィルムの電子化
原板(ネガ・ポジ、フィルム等)は専用フォルダ等に収納する。電子化されたデータを整理・目録化するとともに一部をとってデジタルコレクションに掲載する。
- ウ 複製本の作成
簡易製本されている資料を複製本化する。
- エ 書庫の管理
IPM(総合的有害生物管理)を利用して管理すると共に、温湿度の管理を徹底する。
〔※IPMとは、従来のくん蒸剤による書庫及び資料管理に替えて、清掃による虫やカビの回避や、侵入ルートの遮断等予防に重きを置く方法。〕
- オ 所蔵資料を保存し利活用するための基盤整備
条例施行前引継ぎ文書の評価促進。利用制限事前審査。とっとりデジタルコレクションによるデジタル化資料の公開。

(3) 利用提供

- 収集・整理した保存文書を、鳥取県公文書等の管理に関する条例に基づき、利用提供する。

(4) 普及事業

- ア 常設展
展示コーナー(館内及び共通通路)において、県政に関わる資料を展示する。共通通路については、話題性のある資料をもとに、年2回程度の入替を行う。
- イ 企画展
「小学校が記録した鳥取大火」
(会期：令和5年4月14日(金)～4月24日(月))
「鳥取県ができるまで」
(会期：令和5年9月6日(水)～9月26日(火) 予定)

(5) その他

- 鳥取県公文書等の管理に関する条例第26条及び鳥取県立公文書館管理運営要綱第27条に基づき、公文書館の事業概要等を掲載した『鳥取県立公文書館報』第33号を作成し、当館ホームページで公開する。

〔市町村協働担当〕

(1) 県市町村歴史公文書等保存活用共同会議

県や市町村、県民の保有する歴史資料として重要な公文書等の適切な保存及び利活用推進について、県及び全市町村で連携を図りながら普及啓発・災害時の連携協力に係る検討・情報交換等を行う。

ア 現用公文書及び歴史公文書等の適切な管理・保存活用のための取組

(ア) 職員の資質向上のための研修

a 歴史公文書等の評価選別研修会

b 資料保存・修復研修会

(イ) 部会による個別課題の検討

(ウ) 市町村訪問による歴史公文書等の評価選別・保存活用推進

イ 災害時等の資料の滅失・破損防止のための取組

(ア) 災害時等の連携・協力

(イ) 災害アーカイブズ事業

〔県史活用担当〕

新鳥取県史編さん事業の成果や収集した歴史資料を有効に活用するため、「ふるさと鳥取歴史情報活用推進事業」として、関係機関と連携しながら、以下の事業を実施する。

(1) ふるさと教育・人材育成支援事業

ア 新鳥取県史を活用した学習教材開発事業

イ 学生を対象とした体験型学習の実施やふるさと歴史学習の支援
高校生や大学生を対象とした古文書ワークショップなどを開催

ウ 市町村事業の支援・協力

(2) 県民の豊かな学びを支える県史活用推進事業

ア 鳥取県史ブックレットの刊行

「鳥取県の写真史（仮）」（令和6年度刊行予定）の執筆

イ 新鳥取県史を学ぶ講座

民俗講座「倉吉の鋳物師（仮）」の開催

歴史講座「鳥取県の鉄道敷設運動－山陰線の開通－」の開催

ウ 「占領期の鳥取を学ぶ会」の開催

鳥取市歴史博物館と共催で「GHQ軍政レポート」を県民参画で解説

(3) 新たな地域を拓く歴史情報収集・発信事業

ア 新鳥取県史収集資料の整理と目録・写真等の公開

イ 鳥取県に関する重要な歴史資料の調査収集

(4) 鳥取の特色ある歴史文化の調査研究事業

ア 「鳥取県の昭和の記憶」収集事業

県政・財界等の関係者や高度経済成長期等に関する県民からの聞き取り

「オーラルヒストリー調査報告書『元鳥取県知事 平林鴻三（仮題）』の刊行

イ 鳥取県災害アーカイブズ事業

歴史資料や文献・新聞から災害情報を抽出し、データベース化して公開

ウ 鳥取県における弥生時代青銅器の調査研究

報告書の刊行

(5) 事業検討会議の開催

事業内容等について専門的見地から意見を聴取するため有識者等による会議を開催

令和4年度事業概要

〔公文書担当〕

1 特定歴史公文書等の引継ぎ等の状況(令和5年3月31日現在)

(1) 鳥取県公文書等の管理に関する条例第2条第4項ア及びイに該当するもの
令和4年度は1,594冊の引継ぎを行い、合計56,349冊となった。(単位:冊)

区 分		保 存 区 分	令和3年度まで	令和4年度	合 計
知事部局	本 庁	30年(旧永年)	30,513	753	31,266
		10年以下(旧有期限)	14,980 (92)	437 (41)	15,417 (133)
	地方機関	30年(旧永年)	1,722	13	1,735
		10年以下(旧有期限)	1,127 (29)	30 (3)	1,157 (32)
小 計		30年(旧永年)	32,235 (0)	766 (0)	33,001 (0)
		10年以下(旧有期限)	16,107 (121)	467 (44)	16,574 (165)
知事部局以外	教育委員会 本庁	30年(旧永年)	2,236	40	2,276
		10年以下(旧有期限)	1,218 (15)	24	1,242 (15)
	県立学校	—	629 (4)	75 (1)	704 (5)
	公安委員会	—	12	2	14
	警察本部	30年(旧永年)	132	0	132
		10年以下(旧有期限)	17	3	20
	選挙管理委員会	30年(旧永年)	0	0	0
		10年以下(旧有期限)	4	2	6
	人事委員会	30年(旧永年)	266	0	266
		10年以下(旧有期限)	18	1	19
	監査委員	30年(旧永年)	32	0	32
		10年以下(旧有期限)	562	25	587
	労働委員会	30年(旧永年)	431	0	431
		10年以下(旧有期限)	3	0	3
	収用委員会	—	2	0	2
	海区漁業調整委員会	—	0	15	15
病院事業管理者	—	59 (1)	0	59 (1)	
企業局	—	0	1	1	
住宅供給公社	—	1	0	1	
土地開発公社	—	9	0	9	
小 計		—	5,631 (20)	188 (1)	5,819 (21)
県議会		30年(旧永年)	782	173	955
合 計			54,755 (141)	1,594 (45)	56,349 (186)

- ① 「鳥取県公文書等の管理に関する条例」(平成24年4月1日施行)に伴い、保存区分が見直され永年が30年となった。また、知事部局をはじめとする15機関が公文書館へ公文書を引き継ぐ機関として位置づけられた。(表には引継ぎのあった機関のみを掲載)
- ② 知事部局本庁の10年・5年保存(旧有期限)文書については、平成23年度までは「鳥取県文書の整理、保管及び保存に関する規程」(平成24年4月1日廃止)に基づき、歴史資料として重要と判断したものを引き継いでいる。知事部局地方機関については、平成7年度から知事部局本庁と同様の方針で引継ぎを実施している。
- ③ その他の機関については、教育委員会本庁(平成8年度から)、人事委員会(平成10年度から)、労働委員会(平成10年度から)、県議会(平成10年度から)、監査委員(平成22年度から)それぞれ知事部局本庁と同様の方針で引継ぎを実施してきた。
- ④ 警察本部の30年(旧永年)については、現行警察制度以前(明治～昭和22年)の文書を平成16年度に引き継いだものである。
- ⑤ 年度末時点で引継ぎが完了していない簿冊は、当該年度の引継数には計上せず、翌年度に前年度までの収蔵数に加えている。
- ⑥ 令和元年度館報から電子簿冊数をかっこ(内数)で計上した。
- ⑦ 所蔵資料の再選別により廃棄又は移管したものは、前年度までの所蔵数に反映させた。

(2) マイクロフィルムにより複製、保存しているもの

当館所蔵公文書等の不足分を補充するため、他機関等が所蔵する公文書を複製収集しており、また、当館所蔵の劣化した公文書及び県史編さん収集資料についても複製保存している。

(単位:コマ数)

区 分	令和3年度まで	令和4年度	計	
欠落公文書の補充	県内市町村関係	63,654	0	63,654
	島根県関係	59,381	0	59,381
	福島県移住関係	12,144	0	12,144
	北海道移住関係	18,789	0	18,789
	国立公文書館	477	0	477
	学校調査関係	569,615	0	569,615
	その他	11,592	0	11,592
	計	735,652	0	735,652
劣化公文書	85,355	0	85,355	
県史編さん収集資料	108,493	0	108,493	
合計	929,500	0	929,500	

(3) 刊行物等の行政資料

(単位:冊)

区 分	令和3年度まで	令和4年度の増減	計
行政資料	36,885	809	37,694
統計資料	27,366	173	27,539
合計	64,251	982	65,233

※ 内規による廃棄を実施しているため数が減少する場合がある

(4) 寄贈資料（鳥取県公文書等の管理に関する条例第2条第4号ウに該当するもの等）

(単位:点)

区 分	令和3年度まで	令和4年度	計
県史編さん関係原文書	362	0	362
寄贈資料	10,323	69	10,392
合計	10,685	69	10,754

※ 県史編さん関係原文書のうち、17点を平成29年度に県立博物館に移管

※ 寄贈資料のうち、288点を令和3年度に県立博物館に移管

2 整理・保存の状況

(1) 簿冊（公文書綴）等紙資料の修復

劣化・破損の著しい簿冊や書籍、寄贈を受けた貴重資料等を脱酸、裏打ち、漉き嵌め（リーフキャスト）等で修復した。（事業者委託分）

区 分	令和3年度まで	令和4年度	計
簿 冊	28	2	30冊
図 面 類	614	0	614舗
上記以外の紙資料	53	7	60点

(2) 写真資料等の修復及び電子化

劣化・破損の著しい写真アルバムの修復とともにマイクロフィルム、その他の写真フィルムの電子化を実施した。

区 分	令和3年度まで	令和4年度	計
写真アルバムの修復	25	0	25冊
マイクロフィルムの電子化	242,601	14,252	256,853コマ
写真フィルムの電子化	66,834	1,301	68,135コマ
映画フィルムの電子化	7	0	7巻

(3) 複製本の作成

原本保存と利用者の利便性を図るため、原本やマイクロフィルム等を複製本化する。

区 分	令和3年度まで	令和4年度	計
複製本作成	1,785	0	1,785冊

(4) 簿冊の電子化

センター機能強化・充実事業として、簿冊の電子化する。

区 分	令和3年度まで	令和4年度	計
簿冊の電子化	14,903	0	14,903コマ

3 利用の状況

(1) 鳥取県公文書等の管理に関する条例第13条に基づく利用請求の状況

区 分	請求者数 (人)	請求件数 (件・枚)	利用決定区分			不服申立 件数
			全部利用	部分利用	利用制限	
引継公文書	59	511	503	8	0	-
寄贈寄託資料	23	244	211	33	0	-
写真・映像等	42	903	903	0	0	-
合 計	124	1,658	1,617	41	0	0

(2) 行政資料等の利用状況

区 分	利用者数 (人)	件数 (件)
一般の利用	94	381
県職員	13	32

(3) 一般の方の来館利用状況

月別	来館者数	内 訳				
		開架資料閲覧 展示閲覧	相談・案内			写しの交付 枚
			人	人	冊	
4月	1,385	1,336	49	6	10	94
5月	397	348	49	20	340	183
6月	341	295	46	17	156	88
7月	277	254	23	8	33	99
8月	536	491	45	13	60	74
9月	448	403	45	8	49	62
10月	306	262	44	17	51	72
11月	278	242	36	9	47	8
12月	216	190	26	12	67	35
1月	164	146	18	3	5	9
2月	249	218	31	4	5	12
3月	1,359	1,308	51	4	48	4
令和4年度計	5,956	5,493	463	121	871	740

上記のほかに電話、メールによる相談・案内が93人あり。

(4) 県職員の利用状況

年 度	利用者数 (人)	資料閲覧・貸出 (冊)
令和4年度	317	1,569

(5) インターネットによる公文書館ウェブサイトの閲覧状況

年 度	閲覧回数 (回)
令和4年度	308,826

4 展示の状況

(1) 常設展

鳥取県の誕生からの明治期の資料、昭和20年代後半のカラー写真、鳥取市街を撮影した昭和30年代初頭のカラー写真等を展示した。

(2) 企画展

ア 企画展

テーマ：田賀久治の見た鳥取大火一甦る70年前—

内容：写真家田賀久治（たが ひさじ、1918～1986）が撮影した鳥取大火写真を中心に展示。鳥取県東部広域行政管理組合消防局と連携し、同局製作の防火啓発イラストカレンダーや市中パレード用横断幕等も併せて紹介した。

会期：令和4年4月12日（火）～4月27日（水）

入館者：1, 237人

イ 企画展

テーマ：鳥取県ができるまで

内容：明治2年の版籍奉還から鳥取県の誕生（明治4年）、島根県への合併（明治9年）、鳥取県再置（明治14年）、再置後の県政及び明治30年代の府県の再編計画について紹介した。

会期：令和4年9月9日（金）～9月29日（木）

入館者：351人

ウ 企画展

テーマ：沖兄弟の写真展—記録と芸術のあゆみ—

内容：鳥取県職員として県行政の一端を担った沖節男（おき せつお）氏、同じく鳥取県職員、鳥取県副知事を務めた沖正（おき ただし）氏の兄弟、さらに二人の父で警察官であった沖高造（おき たかぞう）氏が残した写真アルバムや資料をもとに、昭和初年以降の鳥取県の景観や出来事等を振り返った。

会期：令和5年3月1日（水）～3月29日（水）

入館者：1, 347人

5 県市町村が連携・協力した歴史公文書等の保存活用の推進〔市町村協働担当〕

県や市町村、県民の保有する歴史資料として重要な公文書等の適切な保存及び利活用推進について、県及び全市町村で連携を図りながら普及啓発・災害時の連携協力に係る検討・情報交換等を行う。

(1) 県市町村歴史公文書等保存活用共同会議

ア 共同会議、研修会、部会（※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）

イ 資料保存・修復研修会

開催日：令和4年10月26日（水）～27日（木）、令和5年3月8日（水）

内容：紙資料の修復（裏打ち、繕い、綴じ直し）

講師：修復工房HATA Atudio代表 秦 博志氏

参加人数：19名

ウ 公文書館職員による市町村訪問

訪問市町村及び訪問日：鳥取市（鹿野・気高・青谷支所）令和5年5月25日（水）

内容：公文書の管理や「歴史公文書等の評価選別基準の標準例（市町村用）」を活用した評価選別の導入について意見交換、書庫等の見学

(2) 企画展（再掲）

テーマ：沖兄弟の写真展—記録と芸術のあゆみ—

内容：鳥取県職員として県行政の一端を担った沖節男（おき せつお）氏、同じく鳥取県職員、鳥取県副知事を務めた沖正（おき ただし）氏の兄弟、さらに二人の父で警察官であった沖高造（おき たかぞう）氏が残した写真アルバムや資料をもとに、昭和初年以降の鳥取県の景観や出来事等を振り返った。

会期：令和5年3月1日（水）～3月29日（水）

入館者：1, 347人

- (3) 公文書館と図書館、博物館との連携
- ・3館及び理蔵文化財センターで令和3年3月に公開したデジタルアーカイブ（とっとりデジタルコレクション）について、定期的に連絡会議を行うとともに、新たにデジタル化した資料を追加した。
- (4) 歴史公文書等の保存活用に係る市町村との連携事業
- ア 災害時文書搬出必要資機材の備蓄（継続）
中性紙箱、真空圧縮袋、無水エタノール、運搬用折りたたみコンテナ等の管理
 - イ 地域歴史資料所在調査（休止中）
鳥取県内に残る民間の古文書等歴史資料について、市町村等と協力しながら、所在情報の収集を行い、重要文書や未調査の文書について調査員による現地調査を行う。

6 普及・啓発

- (1) 令和4年度鳥取県新規採用職員基礎研修
- 期 日：令和4年4月18日（月）
 - 内 容：「公文書等の適切な保存と利活用」について講義を行った。
 - 講 師：田貝 隆
 - 受講者：131人
- (2) 倉吉博物館講座
- 期 日：令和4年10月1日（土）
 - 内 容：「昭和の合併と倉吉市誕生の歩み」について講演を行った。
 - 講 師：伊藤 康
 - 参加者：30人
- (3) 日野町古文書に親しむ会
- 期 日：原則毎月第4日曜日（午前10時30分～正午、コロナ禍のため7回のみ開催）
 - 内 容：「日野郡黒坂村福田丹波支配筋一件諸事控書抜」ほかを読む
 - 講 師：伊藤 康
 - 受講生：6～10人／回
 - その他：午後から資料整理ボランティア
- (4) 鳥取市社会教育事業団『郷土シリーズ（41）』編集委員委嘱
- 期 間：令和3年7月から令和5年9月まで
 - 内 容：一般財団法人鳥取市社会教育事業団が企画、発行予定の『郷土シリーズ（41）鳥取の震災』（仮）の編集委員として、編集委員会への参加・刊行本の執筆を行う。
 - 委嘱者：池本 美緒
- (5) 県外からの依頼により講師を派遣
- 名 称：令和4年度アーカイブズ研修Ⅰ
 - 概 要：独立行政法人国立公文書館が主催する公文書に関する基礎的研修。「鳥取県における評価選別について」をテーマに、鳥取県における評価選別の概要や、評価選別事務の見直しについての事例報告を行った。
 - 期 日：令和4年8月23日（火）
 - 場 所：会場（スタンダード会議室 神田店、東京都）とオンラインでの開催
 - 講 師：田貝 隆
 - 受講者：137人（会場：41人、オンライン：96人）
- (6) 鳥取県立公文書館報第32号の発行
- 公文書等の管理の状況を公表するため、鳥取県立公文書館報第32号を作成し、令和4年6月にホームページで公開した。

〔県史活用担当〕

ふるさと鳥取歴史情報活用推進事業の概要

新鳥取県史編さん事業（平成18～31年度）の成果や収集した歴史資料の活用を図るため、教育委員会や関係機関と連携しながら、学習教材となりうる資料の提供や「ふるさと教育」の支援等を行うとともに、歴史・民俗を活用した地域づくりや文化財指定等に係る調査協力等の市町村事業の支援を行い、郷土の歴史文化を担う人材の育成や魅力ある地域づくりにつなげることを目的に、令和2年度から以下の4つを柱とする事業を実施し、さらに令和4年度は、事業検討会議を開催し、今後の県史事業の課題整理を行った。

1 ふるさと教育・人材育成支援事業

(1) 新鳥取県史を活用した学習教材開発事業

ア 事業概要

新鳥取県史編さん事業の成果や収集した歴史資料の学校教育での活用を図るため、教科書の内容に即した郷土資料データの提供や、授業で活用できる教材づくり等を進め、ウェブを使って利用しやすい形で提供することによって、生徒や教員が郷土の歴史を手軽に学び、理解を深める機会を創出する。

イ 新鳥取県史を活用した学習教材開発検討会議の開催

期 日：令和4年8月5日（金）

場 所：公文書館 会議室

内 容：教材の公開方法、教材の内容・仕様、今後の取り組みに係る協議

ウ 検討会議メンバー

氏 名	所属・役職	担当等
岡村 吉彦（座長）	県立鳥取東高等学校教諭	中世
吉田 学	県立青谷高等学校教諭	考古
前田 孝行	県立鳥取西高等学校教諭	近代
花原 慧史	鳥取市立湖東中学校教諭	近世
小山 富見男	鳥取地域史研究会会長	近代・現代
横山 順一	県教育センターGIGAスクール推進課長	アドバイザー
奥田 信行	県教育委員会高等学校課指導主事	アドバイザー
石田 敏紀	県立公文書館課長補佐	事務局、古代、現代

エ 公開状況

学習教材10点を作成し、公文書館ホームページで公開した（令和5年4月）。

(2) 高校生のための古文書ワークショップ

概 要：鳥取県の歴史・民俗の調査研究を担う若手の人材育成を図るため、高校生を対象に、古文書の原本に触れたり、くずし字を読み解いて内容をまとめる。（鳥取県立博物館と共催）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

(3) 市町村事業の支援・協力

ア 倉吉博物館講座への出講

期 日：令和4年12月11日（日）

場 所：倉吉交流プラザ

講 師：石田 敏紀（公文書館 課長補佐）

演 題：古代因幡の豪族と采女

参加者：35名

2 県民の豊かな学びを支える県史活用推進事業

(1) 新鳥取県史を学ぶ講座

ア 講座「『新鳥取県史 民俗2・民具編』に掲載された倉吉の民具」

期 日：令和5年2月12日（日）

会 場：（本会場）倉吉市交流プラザ第1研修室
（サテライト会場）上小鴨コミュニティーセンター

講 師：（講座）石野 律子（神奈川大学日本常民文化研究所客員研究員）

参加者：49名（本会場38名、サテライト会場11名）

※新型コロナウイルス感染症対策として、2会場での分散開催とした。

イ 歴史講座「考古学研究による新しい歴史像」

第1回：「森と生きた人々ー鳥取県の遺跡からー」

期 日：令和5年3月4日（土）

会 場：とりぎん文化会館 第一会議室

講 師：中原 計（鳥取大学准教授）

参加者：43名

※9月19日開催予定であったが台風接近のため延期して開催した。

第2回：「因幡・伯耆の古墳時代」

期 日：令和4年10月2日（日）

会 場：鳥取県立博物館 講堂

講 師：高田 健一（鳥取大学教授）

参加者：57名

第3回：「白鳳・天平文化の華ー因幡・伯耆の古代寺院ー」

期 日：令和4年11月6日（日）

会 場：鳥取県立博物館 講堂

講 師：中原 斉（米子市経済部文化観光局文化振興課 専門官）

参加者：45名

(2) 鳥取県史ブックレットの刊行

書籍名：鳥取県史ブックレット24「鳥取県の鉄道敷設運動ー山陰線の開通ー」

著 者：石田 敏紀（公文書館 課長補佐）

体裁等：A5判、131頁、頒布価格500円

頒布窓口

県立公文書館、県庁県民参画協働課、八頭県土整備事務所建設総務課、
中・西部総合事務所県民福祉局、日野振興センター日野振興局、県内各書店、
県立博物館、鳥取市歴史博物館、鳥取市因幡万葉歴史館、倉吉博物館、
米子市立山陰歴史館

県外の方や窓口での購入が困難な方が書籍を希望する場合は、郵送による販売も
可能（クレジットカード又は銀行振込による支払い）

(3) 占領期の鳥取を学ぶ会の開催

英文の鳥取軍政部活動報告を解説し、占領期の鳥取について学ぶ県民参加の連続講座
を鳥取市歴史博物館と共同で開催した。

期 日：6月18日（土）、7月17日（日）、8月20日（土）、
9月17日（土）、10月15日（土）、11月19日（土）、
12月17日（土）、1月21日（土）、2月18日（土）、
3月11日（土）

※新型コロナウイルス感染防止のため、6月から9月まではオンライン形式で開催
した。

会 場：鳥取市歴史博物館

助言者：澤田 晶子（翻訳家）

参加者：毎回10～15人

3 新たな地域を拓く歴史情報収集・発信事業

(1) 鳥取県に関する重要な歴史資料の調査収集

資料群	地域	概要	点数
西木下家文書	日南町	近世～近代の鉄山関係資料	3,480

(2) 新鳥取県史収集資料の整理と公開

新鳥取県史編さん事業等で調査・撮影した歴史・民俗資料について、公開用の目録作成、写真データの整理等を行い、郷土学習や歴史研究等の活用に供するため、資料データや写真画像・図面等を「とっとりデジタルコレクション」で公開した。

○「とっとりデジタルコレクション」でこれまでに公開した資料数

分類	資料群件数	資料点数	概要等
古文書資料	73	1,041	県内外の個人蔵の中世文書
古記録資料	36	51	県内の棟札・金石文等
民俗資料	1	58	北栄町郷土資料館所蔵民具資料
考古資料	672	87	県内主要遺跡データ・実測図
旧県史刊行物	25	25	『鳥取藩史』等のPDF版
新県史刊行物	23	23	『新鳥取県史』の情報
	830	1,285	

4 鳥取の特色ある歴史文化の調査研究事業

(1) 鳥取県災害アーカイブズ事業

ア 事業概要

過去の歴史資料や文献資料から、これまでに鳥取県内で発生したさまざまな災害事例を抽出し、その発生時期・地域・災害種類等をデータベース・アーカイブズとして公開する。

イ 災害関連情報の収集

新旧鳥取県史資料編からの抽出は、旧鳥取県史（近世資料編）・新鳥取県史（軍事・兵事編）を除き終了、地元新聞・市町村広報誌等、その他の資料からの抽出は継続中

ウ 鳥取県災害アーカイブズ検討会議の開催

期 日：令和4年9月29日（木）

会 場：オンライン開催（公文書館 会議室）

検討会議メンバー（所属・役職は、開催当時のもの）

氏名	所属・役職	専門分野等
榎原 雅治（座長）	東京大学史料編纂所 教授	日本史学（中世）
西山 昭仁	奈良文化財研究所 客員研究員	日本史学（近世）
村田 泰輔	奈良文化財研究所 主任研究員	災害考古学、地質学
香川 敬生	鳥取大学工学部 教授	地震工学
西村 修一	鳥取地方气象台 次長	災害・気象情報
小山 富見男	鳥取地域史研究会 会長	日本史学（近現代）
来見田 博基	鳥取県立博物館 主任学芸員	日本史学（近世）
佐藤 紘一	鳥取県立図書館 学芸員	日本史学（近世）

エ 鳥取県災害アーカイブズ実務者会議の開催

期 日：（第1回）令和4年8月19日（金）、（第2回）令和5年3月25日（土）

会 場：（第1回）オンライン開催（公文書館 会議室）

（第2回）ハイブリッド開催（公文書館 会議室）※榎原氏のみオンライン参加
出席者（所属・役職は、開催当時のもの）

氏名	所属・役職
榎原 雅治	東京大学史料編纂所 教授
香川 敬生	鳥取大学工学部 教授
来見田 博基	鳥取県立博物館 主任学芸員
西山 昭仁	奈良文化財研究所 客員研究員
村田 泰輔	奈良文化財研究所 主任研究員

内 容：鳥取県災害アーカイブズデータベースの中・長期的なあり方、シンポジウムの開催、令和4年度のデータの作成状況について

オ 鳥取県災害アーカイブズシンポジウム

テーマ：過去の災害情報をどのように活用するか
ーデータベース・アーカイブの可能性ー

期 日：令和5年3月25日（土）

会 場：オンライン開催（公文書館 会議室）

基調講演

演 題：山陰地方で発生した近現代の地震活動と長期評価

講 師：香川 敬生（鳥取大学工学部 教授）

関連報告1

演 題：考古資料による潜在する地震ハザードの見える化と歴史地震研究
報告者：村田 泰輔（奈良文化財研究所 主任研究員）

関連報告2

演 題：史料データを活用した地震研究ー京都での歴史地震の事例ー

報告者：西山 昭仁（奈良文化財研究所 客員研究員）

トークセッション

（登壇者）香川敬生・村田泰輔・西山昭仁 〈司会〉藤澤匡樹（公文書館 専門員）

参加者：31名

(2) 「鳥取県の昭和の記憶」収集事業

ア 事業概要

戦後の本県の政治・経済・社会その他諸分野で活躍してきた人々の証言を記録化し、貴重な歴史資料として後世に伝える。収集した証言記録は、将来的には現代通史編の編さんにも活用する。

イ 検討会議の開催

期 日：令和4年6月22日（水）、12月2日（金）

場 所：公文書館 会議室

内 容：調査方針の検討、実施計画の策定、テーマと対象者の選定

検討会議メンバー（調査委員）

氏名	所属・役職等	備考
小山 富見男	鳥取地域史研究会会長	元現代部会長
西村 芳将	県文化財局文化財課課長補佐	元県史編さん室現代担当職員
石田 敏紀	公文書館課長補佐	元現代部会委員

ウ 個人（鳥取市在住）の聞き取り

期 日：令和4年7月5日（火）、12月5日（月）

聞き手：小山富見男調査委員、西村芳将調査委員、石田課長補佐

内 容：鳥取の災害、新制鳥取大学、博物館の開館などに関する聞き取り

(3) 弥生時代青銅器の調査研究

ア 事業概要

鳥取県に関する弥生時代の青銅器（銅鐸・銅剣等）の詳細な図面を鳥取県埋蔵文化財センターの兼務職員を中心に作成。成果は報告書の形で県民へ公開する。

イ 報告書作成検討会議

期 日：（第1回）書面会議〈令和4年5月〉、（第2回）令和4年8月9日（火）

場 所：（第2回）公文書館 会議室

出席者：高田 健一（鳥取大学地域学部教授、元県史編さん委員会考古部会長）

中原 斉（米子市文化財専門官、前県地域づくり推進部文化財局長）

県埋蔵文化財センター職員、公文書館職員

内 容：執筆要項・執筆分担・掲載図面・編纂日程に関する協議

ウ 原稿執筆・図版作成

（執筆者）高田健一検討会議委員、中原斉検討会議委員、難波洋三（元奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長）、吉田広（愛媛大学教授）、県埋蔵文化財センター職員
青谷かみじち史跡公園準備室職員、鳥取県教育文化財団調査室職員

（図版作成）高田健一検討会議委員、県埋蔵文化財センター職員

5 事業検討会議の開催

期 日：令和4年8月26日（金）

場 所：公文書館 会議室

出席者：岸本 覚（鳥取大学地域学部長、元県史編さん委員会近代部会長）

小山 富見男（鳥取地域史研究会会長、元県史編さん委員会現代部会長）

西村 芳将（元県史編さん室現代部会担当職員）

佐々木 孝文（鳥取市教育委員会文化財課課長補佐、元県史編さん現代部会委員）

柳楽 利明（公文書館長）

石田 敏紀（公文書館課長補佐、元県史編さん現代部会委員）

内 容：新鳥取県史通史編（現代編）の刊行に向けての課題整理、オーラルヒストリー調査のテーマ・対象について

利用案内

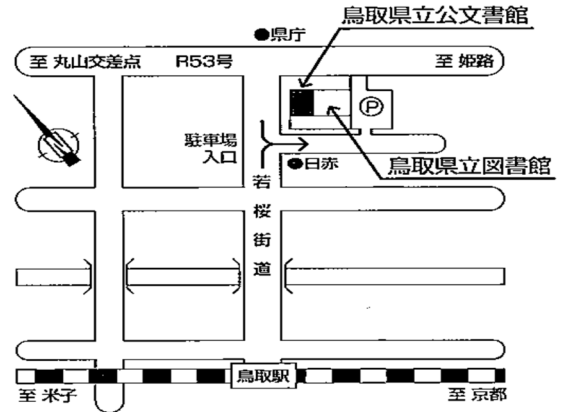
開館時間

●月～金曜日 9:00～17:00

休館日

- 日曜日、土曜日
- 国民の祝日及び振替休日
- 年末年始（12月29日～1月3日）
- 展示コーナーについては、年末年始及び月末に当たる場合を除き、日曜日、土曜日にも入館できます。

案内図



徒歩 鳥取駅から若桜街道を県庁方向へ
徒歩20分

バス 鳥取バスターミナルより
湖山・鳥大線、賀露線など
「県庁日赤前」下車徒歩1分

鳥取県立公文書館報

第33号—令和5年度—

令和5年5月発行

編集・発行 鳥取県立公文書館
〒680-0017 鳥取市尚徳町101番地
電話 (0857)26-8160
ファクシミリ (0857)22-3977
電子メール kobunsho@pref.tottori.lg.jp
<https://www.pref.tottori.lg.jp/kobunsho>